

<側弯症>

姿勢が悪い・左右の肩の高さが違う など、お子さんの外見が気になったことはありませんか？

正常の背骨は前あるいは後ろから見ると、ほぼ真っ直ぐです。側弯症とは脊柱が横（側方）に曲がり、多くの場合 脊柱自体のねじれをとともないます。側弯症が進行すると側弯変形による心理的ストレスの原因や腰痛・背部痛、肺活量の低下など呼吸機能障害、まれに神経障害を伴うことがあります。側弯症には痛みや姿勢、下肢長差などが原因による一時的な機能性側弯症と、脊椎のねじれを伴った脊柱の側方弯曲で、元の状態に戻らなくなった構築性側弯症とがあります。

構築性側弯症の中でも80%を占めている特発性側弯症は原因は不明ですが、思春期の女子に多く一般には年齢が若く、女子では初潮前や骨の成熟が未熟な例は進行しやすいと考えられています。

他には先天性・神経原性・筋原性・疾患による側弯症があります。側弯症を正確に診断するためには、最終的に医師によるレントゲン検査が必要ですが、外から見てもわかることがあります。

左右の肩の高さや肩甲骨の高さと突出の程度、ウエストラインが左右対称であるかなど医師でなくても注意すれば簡単な方法で側弯症を疑うことができます。

骨の成長が止るまで進行する疾患なので、日常生活の中で気付いたり気になる事がありましたらまず診察へ。